

井上史雄先生古希祝論文集に寄せて

酒井 幸

(株式会社 三省堂)

古稀の寿をお迎えになりましたこと、謹んでお祝いを申し上げます。

井上史雄先生には、東京外国語大学在学中にお世話になりました。卒業論文で日本語と他言語との言語接触によって生じた言葉の特徴を記述したいと思っていた私が先生の研究室を訪れたのは 2001 年の春のことです。

当時、調査の対象とする地域・言葉を決めかねており、井上先生にお話を伺いに行きました。そこで、井上先生から、1970 年にハワイへ行き、その 20 年後に語彙集*を作るためにハワイへふたたび調査へ行かれたときのお話を伺いました。そのとき「そうだ！ 1990 年の調査のときに収録したカセットテープがありますよ。語彙集をつくるのに必要な部分だけを使って、そのままになってしまっているのもしよければ使ってください。」とおっしゃってくださいました。このありがたいお言葉が、卒業論文、修士論文でハワイの日系人社会における日本語をテーマとするきっかけとなりました。

さっそく調査資料の保管してある教室へ行き、何本もある収録テープと、70 年と 90 年の調査時に記録していらしたノート類を貸していただきました。

収録テープから文字を起し、コーパス作りを進める中で、先生と調査に協力して下さる方々との会話を聞き、調査への協力のお願いの仕方や、自然に話を聞き出す方法など、多くのことを学ばせていただきました。先生の貴重なデータをいただき、卒業論文では、1990 年にハワイの日系人社会で使われていた日本語の可能表現について執筆しました。修士論文執筆時には、さらに追調査をする心づもりで自分自身でハワイへ調査に行きました。井上先生にご紹介いただいた、ハワイのマキキ聖城キリスト教会では、牧師の黒田朔先生夫妻にお世話になり、教会へいらしている日系人の方々が調査の協力をしてくださいました。井上先生のことを覚えていらっしゃる方もたくさんいらして、“井上さんの学生さん”と最初から親しみをもっていただいたことも、これも先生のお人柄のおかげだと、とてもありがたく思いました。調査時のことは、今もたのしい思い出として鮮明に覚えています。

井上先生の柔軟な発想力と斬新な視点にはいつも感服しております。これからもお元氣でご活躍の場をひろげられ、続く研究者へ多くの示唆を与えてくださることを、お祈り申し上げます。

* Inoue, Fumio 1991 *A Glossary of Hawaiian Japanese*, Second Edition. unpublished.